

平成15年7月吉日

都城北諸文化情報誌 第4号

おてんじょだけ

※「おてんじょだけ」とは、^{たかちほのみね}高千穂峰のことをいい、「御天上嶽」と書きます。昔から都城盆地内に住んできた私たちの祖先はこの山を「父なる山」と^{あが}崇め、こう呼んできたのです。

都北社会教育協会 文化振興部会

都城市教育委員会文化課・三股町教育委員会生涯学習課・山之口町教育委員会社会教育課
高城町教育委員会社会教育課・山田町教育委員会社会教育課・高崎町教育委員会社会教育課

1 第4号の発刊にあたって

第2号の発刊から設けておりますアンケートについて、皆様からさまざまなご意見を頂き、当局としましても、わかりやすい情報誌の作成のために参考にさせていただいている次第です。皆様による本誌のご利用と、賛同の意見が本誌作成の励みとなりますので、今後とも、さらなるご利用のほど、よろしく願いいたします。

さて、発刊をはじめて4回目になる今回は、「郷土芸能」を掲載してみました。全国各地でそれぞれ異なる郷土芸能一。都城北諸でも数多くある郷土芸能にスポットをあててみたいと思います。

本誌にかかるご不明な点や、わかりにくいことなどは、お気軽に最寄りの教育委員会へお問合わせください。

2 文化情報トピックス ～都城北諸の郷土芸能～

郷土芸能一。「全国どの地域にも存在する」と言っても過言ではない、その地域を象徴する文化です。薩摩藩に属していた我々の都城北諸地域では、棒術・剣術を取り入れたものや、牛馬を使った芸能などさまざまな種類があり、古いものだと400年以上も前から伝えられているものもあります。都城北諸にもたくさんある郷土芸能の中から、今回は各市町よりひとつずつを紹介します。皆様の中には、実際に踊りの経験がある方もいらっしゃるでしょうが、今回はその歴史に触れてみましょう。

①山田町

—谷頭相撲甚句踊—

明治34年（1901年）に前田用水路が完成して開田が始まり、さらに大正2年（1913年）、鉄道が開通して谷頭に停車場が建設されたことにより、人家が並び、各地から商人が集まってくるようになりました。

また、諸県地方の牛馬せり市が当地で開かれるようになると、州各地から大勢の業者が集まり、露店が並び大変にぎわいました。

こうした繁栄が続くなかで、相撲祭りや夏祭りが催されるようになりました。その頃より歌や踊りが盛んになり、相撲甚句踊りも踊られるようになったといわれています。

【踊り】軍配を手にした行司を先頭に踊り子が右袖から右回りに登場し、その後ろに襦袢の上に長着物を右肩脱ぎにした力士役の踊りが続きます。白足袋に赤緒の草履を履き、それぞれが「しこ名」の入った化粧まわしをつけて三味線・太鼓・拍子木そしてユニークな歌詞に合わせて踊ります。



↑山田町谷頭の「谷頭相撲甚句踊」



↑都城市郡元の双剣舞

②都城市

—郡元稻荷神社神舞—

都城市の民俗芸能は、30以上のものが各地に伝承されていますが、その中で郡元の稲荷神社に伝わる神舞を紹介します。

まず神舞が伝わる稲荷神社は、島津氏の租:忠久が1977年9月19日に創建したもので、古くは島津稲荷宮とも呼ばれ、島津家に大変縁のある神社です。また、稲荷神社のある郡元町は、平安時代に開かれた、日向・薩摩・大隅にまたがる島津庄の発祥地でもあります。

神舞は、民俗芸能の分類の中では、神楽に属するもので、都城に残るただひとつの神楽でめずらしいものです。

神舞は、穀物の豊作や、人々の無病と健康、長寿を祈願するため、代々の神官の家柄である細山田家、藤田家、神崎家によって伝えられたとされています。以前は、多くの舞があったようですが、現在は、①タチカラ（手力男）舞 ②双剣舞 ③片剣舞 ④宮毘舞 ⑤田の神舞 ⑥薙刀舞の六つの舞が伝えられています。

中でも、田の神舞は、旧薩摩藩各地に伝わっている神楽の中で最も親しまれている舞です。

③山之口町 一山之口麓文弥節人形浄瑠璃一

山之口町立麓小学校では、麓地区に約330年より伝えられている「文弥節人形浄瑠璃」の保存と伝承をめざして、平成6年からこの活動に取り組んできています。学校外活動として第2・4土曜日を利用し、地域に伝わる「山之口麓文弥節人形浄瑠璃」をとおして、郷土愛、文化財保護の精神を育てると共に、地域住民との交流を深め伝統芸能の大切さを学んでいます。



↑麓小学校の文弥人形サークル活動

④三股町 一ジャンカ馬踊り一

鹿児島県国分地方から伝えられたというほか、くわしい由来は定かではないのですが、馬踊りは、山にいる作神を招くため馬を使い、馬に大地を踏ませることにより、大地の神を目覚めさせ、豊作と牛馬安穩を祈る神事芸能です。

このとき、サルを山の神様とたとえ、花のようにたくさん実るように願い、サルの人形や花飾り、米俵の作り物をつけて馬を飾ります。あわせてつけているのが馬の首につけている鈴で、馬が大地を踏むたびに「ジャンカ ジャンカ」と鳴り、「ジャンカ馬」の名前の始まりになったと言われています。



↑三股町のジャンカ馬踊り

⑤高崎町 一谷川俵踊り一

谷川は、高崎町の最も西にある地区である。鎌倉時代に築かれた「高崎城」のある地区である。谷川の俵踊りは、戦国時代(1542)に、都城領主北郷勢と高城小山川原で交戦し、その時戦死した白坂下総介の霊を前田谷川に外達大明神として祠をたて、郷土の領民たちは稲田で戦死した高崎城主白坂下総介を農耕の神として崇め、五穀豊穡を祈願して江戸初期より、踊られてきたといわれている。



↑高崎町の谷川俵踊り

踊りは、踊り手12名で踊られる。衣装は角立白鉢巻、江戸腹、青前垂れ、濃紺の法被、白締綱、白股引、手甲、脚絆、白足袋、草鞋である。囃子は、三味線・太鼓・拍子木・唄い手で、他に旗持ちがいる。踊り手は、団扇をさし俵を1人1個持っている。

踊りは4部で構成されている。

- ・出端・昔青年たちが俵を持ち上げ力比べをする様子をしたもの
- ・俵積み・俵を青年たちが手渡ししながら俵を形良く積み上げるもの
- ・手踊り・今年豊作で目出度いと鶴亀に託して表したもの
- ・引込み・最後に山積みしている俵を蔵に納める様子

代々地域の芸能として踊り継がれ、現在は、谷川自治公民館で保存会を結成し伝承している。毎年7月20日に外達神社の祈念日と六月灯を兼ねて奉納されている。

◎高城町一石山花ずもうー

高城には観音池、中池、松山池と呼ばれる3つの大きな池があります。その中の一つ、観音池は、昔は定満池（じょうまんのいけ）とよばれていました。これらは大淀川から直接水が引けなかった江戸時代、田んぼに水を引くために作られたかんがい用の人工池です。中池には享保九年（1724）の記念碑が、また観音池には天保十二年（1841）に改修が行われたとの石碑が残っていますが、どの池もいつ作られたかははっきりとはわかっていません。



↑高城町の石山花ずもう

石山花ずもうはこの定満池の完成を祝って始められたと伝えられています。堤防を踏み固めるために相撲を奉納したのが始まりとも、最初は踊りを奉納していたが途中から相撲を取るようになったとも言われており、くわしいことはわかっていません。特徴としては今の太相撲とは違う古い形の弓取りや、数え年7歳の子供たちが化粧まわしをしめた土俵入り、また赤ん坊の土俵入りなどがあります。昔は近くの村々の力じまんも集まり9月8日に行われていましたが、今は地区の人たちが中心となり八月の最終日曜日、観音池まつりと同じ日に行われています。

3 書籍紹介コーナー

「郷土のことを調べたいけど、どうやって調べよう？」…ということありますよね。このコーナーでは、各市町の詳細がわかる書籍を紹介いたします。

くわしいお問い合わせは、各市町の教育委員会文化担当課にお問合わせください。

都城市	都城歴史資料館ガイドブック・都城市の文化財・歴史資料館蔵品選集・都城の民俗芸能
三股町	三股町史・三股の民俗芸能・みまたの石造文化・三股の今日を築いた人々・上原莊吉翁伝
山之口町	山之口町の文化財
高城町	高城町の文化財
山田町	山田町の文化財・山田町遺跡詳細分布調査報告書・山田町誌
高崎町	高崎町史

◎ちょっと一息…

諸県の方言って、最近耳にすることが少なくなりましたよねえ…。私の身の回りでも、職場のTさんとの会話でこんなことを聞きました…

T：「私の高校生の娘が帰ってくるなり『牛のことを【べぶ】って言うんだって！』って言い出した」
……え？【べぶ】も知らんと？

敬語を話せない10代から20代の若い男女は最近よく見ますが、郷土の言葉も忘れてはならない一つの文化です。そこで、地域によって多少異なるとは思いますが、諸県弁を少し紹介しましょう。わかるかな？

※物や生き物などの名前です。

- ①アマメ ②ぎゅった ③つりん ④ばぶた ⑤びっきよ